



ぶどうの枝

2019年
冬号

天が地よりも高いように…（14）

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

1999年4月、私は家族と共に札幌教会に着任しました。札幌教会の働きを中心に、札幌三育小学校、幼稚園の運営委員長と北海道地区長という責務が私の肩にかかり、考えるだけでも心はつぶれそうです。その札幌に5年間もの間、勤めることが出来たのは、神様の恵み以外の何物でもありません。

札幌では、次女は私がチャプレンを務める札幌三育小学校に通うことができました。札幌には教育機関が二つあり、教会から南方に200メートルくらいのところへ三育幼稚園があり、車で20分くらい北へ走った篠路というところに札幌三育小学校があります。

札幌での忘れ得ぬ思い出の一つは、この札幌三育小学校です。北の大地を象徴するような広いグラウンドに小さな校舎。定員30名で、2学年が一緒の複式学級。ですが子供たちは上級生と下級生のつながりは濃く、まさに家族です。次女はその札幌三育小学校で大切な少女期を過ごしました。ところで私の札幌着任3年目にしてその札幌三育小学校に、大きな問題が生じました。事情があって着任早々の校長が退職し、当時弱冠40代の私が臨時校長を務めるという事態が起きたのです。

しかも引き受けた時の生徒数は定員よりも大きく減少し、先細りが懸念されました。新入生の募集のために小学校近隣の幼稚園などを訪問しま

した。その結果何とか新入生の定数を確保できたものの、札幌三育小学校は閉鎖されるかもしれないという話にまでなってきたのです。



礼拝堂ステンドグラスと生け花に囲まれ微笑む磯部牧師

札幌三育小学校は、札幌宣教活動の要の一つです。この時、私は当局の方々に「何も手を打たずに閉鎖するのはどうか」と訴えたことを覚えています。幸いにも、試みに新システム導入（マルチエイジ学級＝1～6年の合同クラス、必要な科目は学年別に学ぶ）することに落ち着き、札幌三育小学校は新しく生まれ変わり、やがて生徒募集に安定を取り戻し、小学校は閉鎖を免れたのでした。

今思うと、あれは祈りの奇跡だったと回顧しています。逆境は、その時は辛いものです。ですが振り返ってみるとそこに見事なドラマが用意されていることに気づきます。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」

大きな喜びに包まれています

千葉キリスト教会 斉藤 美恵子

主の御名を賛美いたします。

今日は、信仰告白によるバプテスマを受けさせていただいたことを、うれしく思います。

人生には3つの坂があるそうです。「上り坂」「下り坂」そして「まさかの坂」です。

その「まさかの坂」が私にもありました。それは昨年9月のことでした。「膀胱癌」と診断されて手術することになったのです。担当医の告知は100%救いのないものでした。

手術時間は9時間、ステージ4でした。手術から目覚めて、「ア一生きていた」と喜んだのもつかの間、その10日後に大腸に穴があいているとの事で又手術。4時間でした。

さすがに体力の限界でしたが、何としてでも生きていなくてはならなかったのです。それは、何年も介護していた母を、入院中にグループホームで見てもらっていたので、私が先に逝くわけにはいかなかったのです。

12月やっと退院して、母のところかけつけました。母は待っていたかのよう

に、その日の夜、息を引き取りました。96才でした。

そして今年の7月、再び「まさかの坂」がありました。私の膀胱癌がリンパ節に転移。おまけに、夫が腎臓癌になり左の腎臓を摘出しました。ステージ1でした。

そんな私たちでしたが、「まさかの坂」は悪いことばかりではなく、うれしい「まさか」もあったのです。

それが、本日こうして皆様のお祈りと祝福の中で、夫と二人でバプテスマを受けさせていただいたことです。これが、神様のご計画なのかなと思いました。

聖書を開くことのなかった私ですが、次の聖句がふと目にとまりました。

「私たちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。」

(コリントの信徒への手紙二4章17節)

私の心の中はまっ白です。これから神様のみ言葉が、磯部牧師先生のお言葉を通して、私の心に記されていくのだろうと思います。



令和元年8月31日、
斉藤春雄・美恵子ご夫妻
のバプテスマをお祝いして、
全員で記念写真。

令和元年6月15日（土）「証しと讃美の集い」が持たれました。当日は、篠田正子姉と平山浩兄が、「証し」をして下さいました。お二人の証しを以下でご紹介いたします。

「キリストの体としての神の家族」

千葉キリスト教会 篠田 正子

始めに聖句を読ませて頂きます。

「主は言われる。わたしがあなた方に対して抱いている計画は、わたしが知っている。それは災いを与えようと言うのではなく平安を与えようとするものであり、あなた方に将来を与え、希望を与えようとするものである。その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなた方の祈りを聞く。」 エレミヤ29章11、12節

この度、私が乳ガンと言う病を頂き、災いと思える事の出来事を振り返って見て平安の内にこの場に立たせて頂ける事は、上記の聖句の如き、御言葉の約束でもあることを主に感謝します。

ここに至るまでの経過を振り返らせて頂きます。昨年度に入って突然、老人介護施設での働きの話が来ました。全く予想もしていない事であり、むしろこれから文伝で再スタートをしようと思っていた矢先の事でした。祈りの内に経験も資格もない私でしたが神様の導きと捉え、まずは3ヶ月働かせて頂く事にしました。組織の中での一員としての責任、職員の皆様の老人への愛を基本として真剣に向かう姿勢、そんな中、全てが初めてとは言え、やると言ってもやれない、何度聞いても忘れる、その不甲斐なさには良くも悪くも緊張の連続でした。しかし、ここでの経験は私の信仰生活にとって、またこれからの生き方についても貴重な宝となりました。その中で今までの私の信仰は頭の信仰だったとハッキリと示された思いでした。まさしく頭で分かっている事が行いになっていない。理屈ではなく体に落ちた瞬間でした。それを踏まえ全てはこれからと思えた時、この乳ガンと言う病が見つかりました。何故か先ほど挙げた聖句の通り、何か神様のご計画があるに違いないという思いが心の片隅に有りました。

とは言え驚きと戸惑いは大きく、私にとって我が家族にとっても大きな試練の時となりました。

した。このような中で皆さんにお祈りをして頂く事となります。目には見えない祈りというサポートと、迷いと揺れる心と共に具体的に見える形で寄り添って下さった牧師先生はじめ兄弟姉妹の皆様に感謝します。ガンと言う二文字は祈りと共にそれに関する情報として沢山の神様が送って下さいました。その中で自然療法、食事療法を始めとする体験者の情報もあり、助言もあり、祈りの内に導かれて行ったことを実感しております。迷いは手術を受けるかどうか、手術をするとしてもセカンドオピニオンを受けるかどうか、結果、最初の病院で全摘手術を受ける事になりました。そして「手術は無事成功しました」と言う言葉を聞く事が出来ました。

その後、ガンの質が悪く進行が早い事を聞かされ、また遺伝子検査の結果再発リスクも高かったため抗ガン剤を受ける事となりました。抗がん剤を受けてから、眠れぬ夜も続く中、大好きな聖句を暗唱する事と（中でも特に好きな次の聖句）、

「暗い中を歩いて光を得なくても、なお主の名を頼み、おのれの神に頼る者はだれか。」

イザヤ書50章10節

「むなしいものを見ようとすることからわたしのまなざしを移してください。あなたの道に従って命を得ることができますように。」

詩編119編37節(新共同訳)

また送られてきた、イエス様の奇跡だけを朗読したCDを聞きながら眠りに就く毎日でした。

4 ページに続く



髪の毛は抜け落ち、予告通りの副作用の中で送られてくる励ましの手紙、様々な情報、必要な品物、それら全てが祈りの内に私を支えて下さいました。ガンと言う病を告白して以後、「実は私もね」という具合に教会の中にも、教会の外にも、親族の中にも、既に亡くなった方も含めてガン友が一気に増えました。ある姉妹から届いた励ましのお手紙には、お兄さんと妹さんをガンで亡くされた事が記されていました。その姉妹のお父様は、長寿であった事は私も知っていましたので、それを見送られたお父様の気持を思った時、十字架上で死を経験されたイエス様を見つめておられた父なる神様に思いを馳せました。それまで悲劇のヒロインになっていた私は、辛いのは当事者だけではなく家族親族は勿論、それを取り巻く周りの方々にどれだけの重荷を負って頂いていたことかと。

また、印象に残っている本の中に「遺伝子スイッチオンの奇跡」というのが有りました。余命1か月と告げられた末期がんの方が「ありがとう」を10万回唱え続け、遂にガンが消えたというお話でした。その方の内容は細胞学者の書かれた「命の暗号」という本に出会い60兆個の細胞に感謝し、抜け落ちた髪の毛一本一本にも「有難う」を言い続け、10か月後全身からガンが奇麗に消えたというのです。その細胞学者は細胞の仕組みを研究する中で、遺伝子解読に成功された有名な名誉教授です。人間の英知を超えた大自然の力としか言いようのない存在をサムシンググレートと名付けた方です。

以前にこの話は白石先生からお聞きした事がありました。

聖書の中に「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。全ての事に感謝しなさい。」という聖句がありますが、私はここまで感謝を実行したことがあったらこうかと思いました。ここに感動し、私の体は勿論、我が教会も一人一人はキリストの体の一部であり、誰もが生まれては死んで行く細胞の一つ一つである事を強く実感致しました。作者はガン細胞にまで感謝をしているのです。どの細胞もすべて役割が有りお互いを支え合っている教会は、キリストの体としての共同体、神の家族という思いを強く印象付けられました。

さて、最善を信じて祈りを捧げて下さってい

る事を強く感じながら、2度目の抗がん剤が終わったところで「抗がん剤はここまでにさせて下さい。」とお願いしました。その時、主治医の先生は了承して下さいました。それからは、まず私の心は一気に霧が晴れたように明るくなり、それに伴って体調も日に日に良くなっています。

今回の病を通して教会の中で、ひたすら祈りに徹して下さいました方、必要なものを与えて下さった方、助言や励ましの言葉をかけて下さった方、出来なくなった役割を黙々と肩代わりしてくれている方、数えきれない愛に包まれています。創造の記念である安息日を目に見える天使と目に見えない天使に囲まれ、教会の頭であるイエス様にお会いするために、霊の家族に会える安息日が喜びとなっています。

御言葉に「**見よ、今が恵みの時、今が救いの日**」という言葉が有ります。讃美歌にも「数えてみよ主の恵み」という歌も有ります。一つ聖句が浮かびます。

「神の国は、実にあなたがたのただ中に有るのだ」
ルカ17章21節

今までの自分は頭だけの信仰だったとしても、全ての事を益として下さるという神様は、重ねてきた聖書研究の学びで頂いたもの、続けてきた集会への参加、女性部での活動の参加、名簿に名を連ねてきただけの文伝、これら全ての中で与えられた御言葉と出会った方々は、今改めて大きな財産となっています。

SDA以外の教会にも、また、クリスチャンでなくても体験の中で愛を身に着けている人達は沢山います。だからこそ、その愛の基となるお方がいること、そのことをハッキリと知って頂くためにも「**主に栄光を帰せよ**」という三天使の使命の意味の一端が、やっと体に落ちた気がしています。どんなに遅くのろまであっても、「全てに時がある」という御言葉どおり、日々私達を愛して下さいていることを信じ、与えられた賜物を持って約束の御再臨を信じて歩みたいと思います。



「祈りの応答」

千葉キリスト教会 平山 浩

今日はこのような「証し」の機会を頂きましたので、どのような話をしようかと色々考えていたのですが、私がバプテスマを受けるまでの話をした方が良いのか、妻が先にバプテスマを受けたのですが、その間ズーッと拒否して、聖書を何度もブチ破って捨てた話をするかとか、色々考えました。最終的に、「祈り」についてお話をさせて頂くことに決めました。

「祈り」と言いましたら私が経験したことで、転勤で盛岡教会に2年半位いたのですがその時の話を少しさせて頂いて考えてみたいと思います。

私とSDA教会との出会いというのは、妻と結婚しまして武蔵境という所にアパートを借りました。2LDKの小さな部屋でした。そこで新生活を始め、2年後位に長男が生まれ、妻は出産を機に仕事をやめました。たまたま、その時に同じアパートにSDAの信者さんがいました。というのが最初のSDAとの出会いです。そうは言ってもしっかり出会ったのは妻の方で、妻は子育ての関係で家庭集会に参加したり小金井教会の求道者クラスに参加したりしていた訳で、私としては神様と出会って、神様を拒否する生活がそこからスタートしました。

私が神様を受け入れるようになるのは、長男が北浦に入った時からです。それは、栗山さんの奥さんの計らいによりまして北浦に学校見学に行ったことがきっかけになり、長男が北浦に入学することになりました。栗山さんに上手くはめられたという感じです。

長男が北浦三育に入るまでのおよそ13年の間、神様との戦いがありました。経験したのは、もがけばもがくほど神様はどんどんやって来る。13年間の最後の方は、気が付きまして、一切無視するというか何も無い様な形にするということで、礼拝のある土曜日はなるべく用事を作り、妻と予定が当たらない様にして、何事もないように子供と野球の練習に行くとか、そういう形になるべくぶつからない様にして無関心という事で抵抗しました。

ですから今考えますと日本人は神様とかに無関心ですよ。そういう意味で伝道は難しいのではないのでしょうか。むしろ抵抗して「それはおかしい」とか「なぜだ」とか言ってきたらこちらの

ものですよね。ですから最後の方は無関心という事を貫いて来ましたがにも拘らず、栗山さんにはまってしまいました。

長男の北浦入学を機に神様を受け入れたと言いましても、生活は仕事中心、会社第一、そして会社では出世して、どんどん収入を増やそうという生活には全く変化が有りませんでした。当然、今日の話のテーマの「祈り」ということに対して言えば、お祈りをまともにした事が有りませんでした。食事の前に「いただきます」と言う代わりにお祈りする位でした。

そのような私が変わって行く小さなきっかけを与えてくれたのが盛岡教会と言うほんとに小さな教会でした。人数的には集会所と言う感じですが、教団の盛岡三育幼稚園付属で規模は小さいですが教会という形で、幼稚園の先生方と数名の高齢の礼拝出席信者さん達の本当に小さな教会でした。2006年5月に盛岡に転勤になりまして、この小さな教会に参加することとなりました。本当に小さな集まりなのですが、教会の方々に暖かく迎えられ、妻も東京での仕事をやめて一緒に来てくれ、また妻の盛岡での仕事も教会が見つめてくれ、盛岡での生活が始まりました。

そして教会生活を送るにつれて、小さな集まりなのですが、教会員の真摯な信仰生活に心を動かされたという思いが有ります。そんなある時、盛岡三育幼稚園の新年度の募集園児が思う様に集まらないという事態になりました。考えて見れば本当に古い教会で1階に園舎が有ってその2階にホールが有って、そこに椅子を置いて礼拝するという感じの2階建ての教会です。1階も1フロワーなのですが移動式仕切り壁になっていて、年少と年中を分ける。必要な時は壁を取り払い、皆で幼稚園の活動をする小さな幼稚園でした。周りを見ると盛岡市内と言えども立派な幼稚園がたくさんあるので、敢えて選んでここに来る人は大変だろうと思いました。

6 ページに続く



そこで教会員皆で毎週毎週真剣にお祈りをして「園児を私達の幼稚園に与えて下さい」とお祈りをズーッとしました。それから毎週幼稚園の入園の応募の人数を牧師先生から知らされるようになり、そういう現実を知りつつ、また神様にお祈りをしていく事をズーッと続けていました。私は、そういった目の前の困難について皆で真剣にお祈りをする事は初めての経験でした。

そしてこの祈りというのは神様によって当然聞き届けられました。徐々に入園予定者の人数も増えて行きまして、幼稚園の運営を継続するために必要な子供たちの数が与えられたことを経験しました。去年幼稚園は閉鎖になってしまいましたが、その後もこういう祈りは続けられて来たと思います。そして閉園にはなりましたが閉園にあたって霊的に支えられ、盛り上がって終わったとの文集等も来ていました。そのような形で恵まれて神様の御計画に従って閉じたというのが分かりました。私が経験したのはその一部であり、祈りによって幼稚園の運営を支えることが出来たということでした。

そしてその後、私の思いも徐々に神様によって変えられまして、2012年には、今まで仕事中心、会社中心の生活を25年位やってきましたが、脱却して信仰生活を改めようと決心し、名古屋で前の会社を辞めまして転職をしました。その転職をしたきっかけというのも盛岡教会での祈りの応答の体験、これが信仰生活の土台になっているのではないかと思います。

そして名古屋で転職しまして教会活動の方も今までよりは少し奉仕が出来るようになり、信徒伝道師養成コースが始まって2年目位でしたが、名古屋から半年間月2回通って参加しました。その時も本当にサタンが邪魔をするんです。祈って出かけたりして色々有りまして、それもまたお話しできる機会が有りましたらと思います。そのような事で私の信仰生活の土台が、盛岡教会での小さな集会での祈りというのが今の土台になっていると感じます。ここでイエス様のみ言葉を少しお読みしたいと思います。

・マタイによる福音書18章20節

「二人または三人がわたしの名によって集まる
ところには、わたしもその中にいるのである。」

こうしてイエス様は何時も私たちが祈っている時には共にいて下さるのです。そしてまたイエス様は約束もして下さいました。

・マルコによる福音書11章24節

「そこであなた方に言うが何でも祈り求めることはすでにかなえられたと信じなさい。そうすればその通りになるであろう。」

私たちはイエス様に真剣に祈って信じて繋がっていることが必要かと思います。そしてヨハネによる福音書ではイエス様が次のように言っておられます。

・ヨハネによる福音書15章7節

「あなたがたがわたしに繋がっており、わたしの言葉があなたがたに留まっているならば何でも望むものを求めるがよい。そうすれば与えられるであろう。」

イエス様はこのように本当に私たちに約束をお与え下さっています。そして祈りが大切な事を私も分かっています。今日、磯部先生より礼拝の時にゴイヤー先生の本の紹介が有りました。私も去年の年末教会に行けなくなった時は、ホープチャンネルでゴイヤー先生のメッセージ（広島三育でやった12回シリーズ）をズーッと見まくってまして、これを具体的に見ますと祈りの大切さ、具体的な祈りの方法、そういう事をゴイヤー先生が直接教えて下さる12回シリーズです。磯部先生より紹介頂いた本と併せてホープチャンネル12回を何回も見たいと思います。

ホワイ夫人も「キリストへの道『祈りの特権』」の中で次のように書いています。「私たちの祈りが聞かれないように見える時も、御約束に堅く頼らねばなりません。なぜならば祈りが答えられる時が必ず来て、私たちが最も必要としている祝福を受けることが出来るからです。」「私たちがありのままの姿で自分の力なさ、頼りなさを感じて神のもとに行き、限りない知恵を持つ神様に謙遜に信頼をもって、私たちの必要を告げるならば、万物をみそなわし、み旨とみ言葉を持って全てを支配しておいでになる神は、私たちの叫びに耳を傾け、心に光を照らします。」

私はまだまだ祈りを本当に疎かにしています。特に皆様の前ではなく自分の家にいる時に本当に疎かにしていると思います。神様への祈り、本当に神様を信じて、神様はすべてに答えてくれるこの祈りの応答というのを忘れずに自分自身の心を、神様に密やかに開いて神様への感謝を常に忘れず、全てをお委ねして信じて祈り続けて行かなければいけないと、この「証し」を準備しまして改めて心を新たにさせて頂きました。

有難う御座いました。

89回を迎えた「菜食料理教室」

千葉キリスト教会 家庭部&女性会 部長 浅川千鶴子

家庭部&女性会のご奉仕としての菜食料理教室が11月4日の「蕎麦打ち」を以って89回を数えました。

神様のお支えを信頼して毎月の第一月曜日を菜食料理教室と決めて続けて来ました。

この菜食料理教室の目的は、信者と未信者の皆さんの隔てを取り除くことにありました。

教会が推奨する三育食品を使い、楽しく交わりながら料理する。又、毎月の献立は、それぞれの方々の得意料理や、紹介したい料理などを取り入れていますので、どなたでも参加していただける教室です。

一人、二人と仲間が加えられ、教会外部

からの17名を含む教室となりました。毎回40食用意しています。蕎麦打ち名人のご協力によって11月は新蕎麦を打っていただきました。

食事のあとは磯部牧師のメッセージと、皆さんと一緒に牧師作詞の替え歌を交えて楽しく賛美しています。丸く輪になって「ニユースタートの歌」を歌い、体を動かす小体操を取り入れ、会を閉じました。

外部の方々と親しく交わる機会としての「菜食料理教室」の目的の実りをみています。今回も楽しく和気相合と新蕎麦をいただきました。

皆様のご参加をお待ちしています。



参加者全員で記念写真。教会員以外の方々が17名も参加して頂ける広がり感謝です。

菜食料理40食。
地域の方々に配食もします。
兎にも角にも菜食料理は、
健康に良いお料理です。



手打ちの新蕎麦を
カットし仕上げて
います。
美味しいですよ。
食べたいなー。

祝福された「令和元年敬老お祝い会」

千葉キリスト教会 長老 渡邊 邦男

今年も私たち千葉キリスト教会では、「敬老お祝い会」を9月14日（土）13時から開催いたしました。

今年は台風15号の直撃を受けて、多くの人たちが家屋に被災を受けてしまいました。その一週間後の開催で午前中も雨が降り来場者が少なくなってしまうだろうかと心配しました。

しかし、神様の恵みで雨も昼前には止み曇り空ではありましたが敬老のお祝い会を皆さんで楽しむことが出来ました。

始めに千葉教会牧師 磯部 豊喜先生からメッセージをいただきお祝い会が始まりました。最初の出演者は御本人もお祝いされる側であります、教会信徒 徳永 奎三さんのマジックです。いつもながらのトークと手品で皆さんを笑いに誘っていただきました。

続いては、教会の子供たちによる「なぞなぞと賛美」です。なかなか、難しいものもありましたが、子供たちがそれぞれ自分

で考えて出題していて感心させられました。

そして、今年初めてのゲームとして「イントロクイズ」に挑戦してみました。分かりやすい讃美歌を少し行い、来場者が良く知っているであろうと思われる歌謡曲を中心に、イントロを流し曲名を当ててもらおうというゲームです。

皆さん曲は知っているのですがなかなか曲名を思い出すことが出来ないようでした。

何人もの人が、知っているとうなずいているのですが、曲名を言えないのです。

次回同じゲームをするのであれば、何か工夫が必要だと思いました。

最後にゲストの中からお二人の方に「私の思い出」というタイトルで、大岩 要さん、佐野 いし子さんにお話をいただきました。お二人ともお若い時代のことをよく覚えておられて素晴らしいと思いました。

徳永兄のマジック。

真中は、紐で縛られている松尾姉です。左右の平尾兄と根本姉が紐を引っ張ると、松尾姉を縛っていた紐が見事に解き放たれました。

子供たちが「なぞなぞと賛美」でお祝いをしてくれました。



千葉県教会音楽祭に参加して

千葉キリスト教会 賛美アフタヌーン 丸山敦子

磯部牧師をお迎えして4年目となる今年も、千葉県教会音楽祭に賛美アフタヌーンとして9月16日、参加致しました。

毎年新たなことに挑戦し続けて4年、他のキリスト教会にSDA千葉キリスト教会の名前を知っていただく良い働きになっているのではないかと思います。

今回賛美した曲は、磯部牧師作詞、白鳥俊さんが作曲してくださった2曲「希望の光」「十字架のみ言葉」と、加えて子供たちと一緒に手話付き賛美「神様のおくりもの」の3曲を賛美することにしました。

初めの2曲はちょっと昭和歌謡を思わせるメロディーで、合唱となると、一つになることがとても難しく思いました。誰かが指揮をしなけければならない中、初めて私が指揮することになりました。引き受けたものの、どう指揮して良いかも分からないド素人です。緊張感で眠れない日々が続きました。イエス様助けてくださいとすがりながら、練習を重ねました。

み言葉の中の“恐れるなわたしはあなたと共にいる”という言葉にどれ程助けられたでしょうか。神にできないことはない。この約束を信じて練習を続けました。今年程たくさん練習をした年はないと思います。途中からバイオリン奏者の吉田

雅子さんが一緒に参加することになり、ピアノ、ギター、バイオリンの伴奏という豪華なアンサンブル合唱となりました。

最後に子供たちと一緒に手話付き賛美も楽しく賛美出来ました。子供たちにとっては初めての参加、終わった途端に“ア～すごく緊張した！”“ホッとした”と口々に言っていました。

今回この記事を書くに当り、祈りつつ聖書を開き見つけた聖句があります。

詩編149:1～3

ハレルヤ。/ 新しい歌を主に向かって歌え。/ 主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌を歌え。/ イスラエルはその造り主によって喜び祝い/ シオンの子らはその王によって喜び踊れ。/ 踊りをささげて御名を賛美し/ 太鼓や堅琴を奏でてほめ歌をうたえ。

まさにこのみ言葉にあるように新しい歌を主に向かって主の慈しみに生きる人の集いで賛美し、手話によって子供たちと喜び踊り、三種類の楽器の伴奏で主に賛美をささげられたことは本当に感謝でした。

賛美アフタヌーンのメンバーから歌いやすかったと言ってもらえたことは子供たち同様、私も大役を終えてホッとしました。そしてこの経験は神への感謝がより深いものとなりました。



千葉県教会音楽祭で
賛美する
賛美アフタヌーンの
メンバーの皆様。

子供たちと一緒に、手話付き
賛美「神様のおくりもの」
を賛美するメンバーの皆様。



第5回「チャレンジクッキング」を終えて

千葉キリスト教会 児童伝道部 書記 水野 綾子

チャレンジクッキングも、今回で第5回目を迎えました。当初は児童伝道部の大人が内容を考えていましたが、回数を重ねる中で、子ども達の方からクッキングのレシピや、工作のリクエストを出してくれる様になりました。子ども達も時に先生役になります。その様に定着してきている事とても嬉しく思います。

第5回目は、スライム作りとみたらし団子作りでした。スライム作りをリクエストしてくれたMちゃん、張り切って試作を重ねながら材料の分量をメモし、必要な人数分の買い物をし、みんなにわかりやすい様に、模造紙に手順も書きました。しかし、いざ本番、声を張り上げて説明することは恥ずかしくて、後はお母さんにバトンタッチしましたが、一步チャレンジしたことに大きな意味があると思うのです。

その様なチャレンジクッキングでは、毎回子ども達にチラシを書いてもらい、近隣にポスティングしています。個性豊かな子

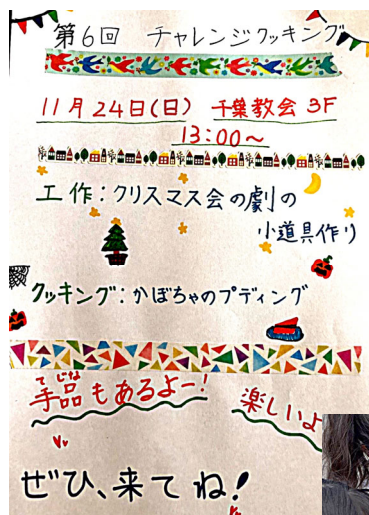
ども達のチラシは、クスッと笑ってしまうものから、丁寧に仕上げて大人顔負けのものまで様々です。そのチラシにITのプロ、O兄に教会の詳細情報を載せたものに仕上げてもらい、初めてチラシを見た方にも参加してもらえる様に、活動の様子の写真も載せてもらっています。

その、ポスティングも重要な任務です。毎回男の子チームと女の子チームに分かれて、それぞれに大人が付き添いポスティングします。男の子チームはダッシュで次々にポスティングするので、付き添う大人は大変です。女の子はお散歩しながらのんびりポスティングします。子どもの自転車が停まっていたり、子ども服が干されていたり、子どものいそうなお宅には必ずポスティングします。まだ配ったチラシを見て参加してくれた人はいないのですが、いつか必要な人に必ず届くと信じて、これからも一軒一軒ポスティングし続けていきたいと思っています。



さー。

みたらし団子作りにチャレンジするぞ。



子供達の作った
チラシ。
良く出来て
いるね。

ポスティング
頑張ってます。



祝福された「第9回チャーチコンサート」

千葉キリスト教会 コワイヤー 酒井 紀子

2019年10月27日（日）午後2時より千葉教会礼拝堂にて第9回チャーチコンサート「欧州音楽紀行」が開催されました。

観測史上初めてという大型台風、大雨が続いて千葉県はじめ日本全国が甚大な被害を受けている中、当日は朝から穏やかな晴天に恵まれました。

「台風などで心も身体も疲れている私たちですが、今日は美しい音楽を心から楽しんで頂き、その喜びを分かち合いたいと思います」とヘブンズコワイヤー代表森恵子さんの挨拶でコンサートは始まりました。

今回のプログラムは「欧州音楽紀行」と題してヨーロッパを旅するイメージで音楽を楽しみました。

音楽の旅は、北ドイツから始まり、フランス、イタリアへとめぐり、その地で生まれた作曲家の曲がオーボエ（安藤徹さん）、チェロ（森大地さん）、ピアノ（四條智恵さん）により次々と演奏されました。味のある安藤さんのトークも加わり、流れ出る美しい音色は、聞いている一人一人の心を瞬時にとらえ北ドイツの牧歌的風景、華やかなパリの街、明るいイタリアへといざなってくれました。

続いて、日伊の架け橋となって活躍しているテノール歌手、三浦幸未知さんが“いつも神様に守られていた”というイタリアでの様々な思い出を、ユーモアを交えて語ってくださいました。

三浦さんは、アヴェ・マリアなどの清らかな祈りを思わせるイタリアの歌、命の大切さを心に響かせる日本の歌を、愛を込めて語りかけるように歌われ、テノールの美しい響きは聴衆を魅了しました。

音楽の旅の最後はギリシャで、アンコール曲としてアテネオリンピックの“栄光の架橋”が4人の演奏者全員で一杯演奏され、会堂は大いに盛り上がり大きな感動の嵐となりました。

この日のヘブンズコワイヤーは喜びと感謝を持って、“聖フランシスの祈り”など3曲を賛美いたしました。曲に係る“聖句、聖フランシスの祈り”の朗読も加わり、み言葉や聖フランシスの祈りが美しいメロディーとなって清らかに流れ出て、聴衆の皆様の心を潤したのではないのでしょうか。

教会の枠を超えて神様を賛美したいと集まったメンバーで構成されているヘブンズコワイヤーは、森恵子さんの愛溢れる指導の下で、素晴らしい賛美の曲を歌える幸せを味わい、神様の大きな祝福を頂いております。

音楽の素晴らしさを演奏者と聴衆が共に分かち合えるこのチャーチコンサートの恵みに、心からの感謝を奉げます。

この日の来場者の中のお一人が、“感動の涙が止まりませんでした！とても慰められました！”とお話し下さいました。何よりの喜びと感謝でした。



「ヘブンズコワイヤー」のメンバー

第10回チャーチコンサート開催予定は、
下記の通りです。皆様のお越しを心から
お待ちしております。

2019年12月22日（日）

14:00開演

「クリスマスコンサート」

12月、令和2年1月、2月の行事

◇ クリスマス特別礼拝及び教会クリスマス会

☆日時:12月21日(土)

☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆クリスマス特別礼拝:午前11時～12時

☆教会クリスマス会:午後1時30分～3時

☆クリスマス特別礼拝では、イエスキリストの降誕を祝い、希望と喜びと恵みに与かりたいと思います。

☆教会クリスマス会では、主イエスのお誕生を、劇や賛美などで楽しく

お祝いをします。皆様のお越しをお待ちしております。

◇ クリスマス・コンサート

☆日時:12月22日(日)

☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆コンサート:開演:午後2時

☆茶話会:コンサート終了後

☆主イエスの降誕を、皆様とクリスマスキャロルでお祝いしましょう。皆様のお越しをお待ちしております。

ヘブンズコワイヤーの賛美や金管六重奏の演奏などをお楽しみください。



毎月の定期集会（開催場所：千葉キリスト教会 集会室）

◇ 菜食料理教室

☆日時：毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時

☆参加費：500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時：毎月、第二、第四水曜日に開催します(当期は「創世記」)。午前10時～11時30分

☆講師：千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時：奇数月の第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分～7時30分

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができると願っています。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

◇ チャレンジクッキング

☆日時：奇数月の第四日曜日。午後1時～3時。

☆対象：子供の皆様（小学生以下は保護者の御同伴をお願いします。）

☆どなたでも御参加下さい。工作づくりもあります。

安息日学校（毎週土曜日）

☆賛美礼拝：午前9：15～9：25

☆聖書の学び：午前9：25～10：40

安息日礼拝（毎週土曜日）

☆千葉キリスト教会：午前11：00～12：00

☆シャローム若葉虹の家：午前9：30～10：10

祈祷会

☆毎週、火曜日夜午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈祷会をしています。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り:3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話:043(231)3620

FAX:043(231)1634

Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

<http://sda-chiba.org/>

★発行責任者:

磯部豊喜 牧師

★スタッフ:

酒井 闊 吉田 敏英

綿引 秀子